

< 巻頭言 > AIとの共存

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 研三 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/2000018

< 巻頭言 > AI との共存

人間情報学研究科長 櫻井研三

最近話題になっている ChatGPT を試してみました。深層学習という技術を用いて作られた、対話型の文章生成 AI です。現段階ではタイピングで会話するのですが、広範囲の話題に対応できるように事前学習していて、ほとんどの質問にかなり高レベルの回答を返してきます。しかも英語や日本語という自然言語だけでなく、Python のようなプログラム言語にも対応していて、「～という動作をするプログラムを Python で作成してください。」と入力すると、そのコードを書いてくれるそうです。

このような AI の原理であるニューラルネットが最初に脚光浴びたのは 1980 年代のことでした。マックレランドとラメルハートという 2 人の研究者が並列分散処理 (PDP) という理論的モデルを提唱し、それまでの AI 研究に大きな変革をもたらしました。その後、流行は一時下火になりましたが、このモデルに基づくニューラルネットの中間層の数を増やしたディープニューラルネット (DNN) や、哺乳類の視覚系の神経構造を参考にしたユニット同士の接続構成を持つ畳み込みニューラルネット (CNN) が高い学習効率を実現したことで再び注目され、現在の (何度目かの) AI の流行に至っています。この部分を読んで何のことかわからない院生の方は、ゼヒネットを検索して調べてみてください。

原理を知らなくとも AI をただ単に便利な道具として使うという考え方もあります。しかし、それでは AI が内包する危険性を野放しにすることになりかねません。例えば、AI が特定の人物やグループを誹謗中傷するような文章を作成し続けることもありうるのです。さらに、ChatGPT のような AI を利用して論文を書いたらどうなるのでしょうか。それは自分が書いた論文なのでしょうか。この問題は既に研究者の間で注目されており、剽窃チェックの一部として取り込む動きが始まっています。

これからの私たちの生活には、好むと好まざるとにかかわらず AI が関わってきます。AI は私たちの生活を豊かにしてくれるでしょうが、同時に私たちはそれが悪用されないように注意を払い続ける必要があります。これは AI に限らず、すべての科学技術について言えることです。どのような技術でもその原理を理解し、その技術が持つ危険性に注意しながら使ってこそ、私たちの生活の安全が確保されるのです。

最後に、2022 年度は 9 月期に 1 名が博士後期課程を修了して博士号を取得し、年度末には 3 名が博士前期課程を修了して修士号を取得しました。研究科を代表してお祝い申し上げますとともに、今後さらに各自の研究を発展されることを期待しております。

2023 年 2 月